

問 遠野市総合計画前期基本計画が22年度で終了する。前期最終年を迎え、どのように評価しているか。また、未達成部分の要因は何か。そして後期計画の目指すビジョンは何か。

答 全事務事業評価においては、443事業中390事業が目標を概ね達成し、達成率88%となっている。未達成の要因は、長引く経済不況、新型インフルエンザなど対外的なものや、目標値を大幅に高く設定したもの、市民との連携や啓発・普及など取り組みが足りなかったものである。特に農畜林産関係では、出荷額や生産量において厳しい結果となった。後期ビジョンについては、「過疎問題」に果敢に挑戦し、地域文化や資源の「再発見」

が再生につながり、もっと地域から「元氣」と「活力」が湧き出る取り組みや小中高生の教育環境整備の展開などをキーワードとし、進める。

問 今、和牛繁殖農家は、様々な厳しい状況の中で頑張っている。しかし、農家戸数の減少、頭数の減少が現実。市の農業生産額の約45%を産出している畜産は、農業の中核である。コスト低減や、多頭化などを進める上でも、公共牧場の利活用は、絶対必要と考える。なぜ放牧頭数が減少するのか。放牧頭数を増やすことによって放牧事業も改善されると思うが、その道筋を考えるべきである。また、通年放牧やキヤトルセンターの建設など畜産振興を図るべきと思うが。

が再生につながり、もっと地域から「元氣」と「活力」が湧き出る取り組みや小中高生の教育環境整備の展開などをキーワードとし、進める。

問 今、和牛繁殖農家は、様々な厳しい状況の中で頑張っている。しかし、農家戸数の減少、頭数の減少が現実。市の農業生産額の約45%を産出している畜産は、農業の中核である。コスト低減や、多頭化などを進める上でも、公共牧場の利活用は、絶対必要と考える。なぜ放牧頭数が減少するのか。放牧頭数を増やすことによって放牧事業も改善されると思うが、その道筋を考えるべきである。また、通年放牧やキヤトルセンターの建設など畜産振興を図るべきと思うが。

後期ビジョンと畜産振興について



新田 勝見 議員 (新和会)



畜産業は遠野市の農業の中核

答 畜産振興の方策として、畜産基盤再編整備構想を取りまとめ、「草地林地一体的利用総合整備事業」として国へ採択に向けて手続きをした。その中でキヤトルセンターを整備するとともに、5つの公共牧野を、主幹と補完に分担し、草地改良等の整備を図る。また、農家の

増頭要望に迎え、農家所有草地の整備も盛り込んでおり、将来的には耕作放棄地等の解消と連動して山際を含めた団地化による草地の創設も可能となる。公社運営については、個人投資は難しいことから、公共が投資することも必要であると考えている。